

平成31年4月24日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

それではただいまから定例記者会見を開催いたします。

先ほどご案内しましたとおり、本日もライブで配信をしております。

本日の話題は一件です。市長、さっそくよろしくお願いいたします。

【市長】

はい。今日の話題は、まちは劇場春フェス2019の一本でありますけれども、後ろにも、まちは劇場の新しいシンボルマークを作ってくれてありますけれども、あと1週間で令和の時代が始まる、なんかワクワクしますよね。お札も新しくなるし、なんか人間の心持ちってというのはすごく不思議なもので、やっぱり人心一新とよくいうけれども、静岡市も何となく令和の時代に向けて前向き感がある、ワクワクするっていうような、そういう市民の心情というのを大事にするのが、大事だなということを思うんですね。

そこで一つ、明日の新聞折込なんですけれども、昨年から1年間続けてきました静岡県中部連携中枢都市圏の第1弾の試み、GOTO、これをぜひ皆さんにPRをしておきたいなと思います。今回は焼津市の小川港で撮影をしたのですが、この一人ひとりの表紙の表情を見て下さいよ、記者の皆さん。一人ひとりがどんな気持ちでこの写真に写ってるのか、すごくいい表情していますよね、一人ひとり。これは写真家の杉山雅彦さんの技なんだろうけれども、本当に一人一人いい表情している子どもも大人も。それで、こういう気持ちで今日の記者会見を楽しくやりましょうね、楽しく。

ぜひ、ご協力お願いしたいなというふうにお願いをします。そんな下ばかり向いていちゃダメですよ、前向きに令和の時代に向けて、楽しくこのひととき過ごしたいなと思います。オール静岡市のチームですので、私たちはね。

さて、そこで今日の話題に入るわけでありましてけれども、ご存知のとおり、静岡市の五大構想の一つであり、今回の私の公約マニフェストの5つの最優先政策の一つである「まちは劇場」。さらにパワーアップして春フェス、1ヶ月にわたってこれから令和の時代の幕開けを飾るように、静岡市に来ると笑いに溢れるよ、ワクワクドキドキだよ、すごい面白いまちだよ静岡市はとそんなふうに感じてもらえるような春フェス。春のフェスティバルをいろいろな事業を全部そこに集約をさせて、相乗効果を持ってもらって、そしてイギリス、ロンドンのコペントガーデンとか、フランスのアビニオンとか、そんなような雰囲気を作りたいなというふうに思っています。

これは、イベント一つひとつが楽しいに越したことはないんだけど、その目的は経済の活性化であります。交流人口を増やすこと、GOTOもそうですけれどもね、とにかく圏域内の人の移動を促すことあるいは外から人を呼び込むこと。こういう春フェスをするによって、そのことによって交流人口の拡大をして、そしてそれが消費行動をもちろん促します

ので、その消費行動によって経済の活性化、それが目的だと、まちは劇場の目的はそこにあると。

イベント一つひとつが仕掛けであり、ツールであり手段であって、静岡市がこれを公金をかけてプロデュースするのは、民間経済の活性化が目的だということを、ぜひ記者の皆さん、押さえていただきたいなと思います。

私は、個人演説会でこれから最も力を入れていきたいところが経済の活性化だということをお聞きになった方もいらっしゃると思いますけれども、そういう理解をぜひお願いをいたします。そこで、今年もっとパワーアップしますけれども、去年の春フェス、まちは劇場がどうだったかというのを約1分間くらい、ここにまとめましたので、ご覧いただきたいなと思います。

～春フェス 2018 の映像～

はい、これが去年のまちは劇場、春フェスですね。これよりもさらに今年はパワーアップをしていきます。皆さんが面白いなとか、感動したなと思うフェスティバルって、あるいは芸術って何ですかね。例えば、テレビに例えて言うと分かりやすいんだけど、ある人は例えばNHKのE-テレ、日曜の質の高いクラシックの音楽や演劇を見て、すごい感激した、感動したと思うし、ある人は、民放の「しゃべくりセブン」を見て面白いなど、バラエティーの番組を見てすごいな、すっきりしたなとカタルシスを得るかもしれませんし、それぞれじゃないですか、このエンターテインメントを見て市民の方が感じるものって。

だから裾野を広くすることが大事ですよ。特にライブというか、生、テレビじゃないですから、ですから富士山型でやりたいと思っています。てっぺんはやっぱり芸術性の高いもの、すそ野は単純でもいい、くだらなくてもいいなんか楽しめるもの、そういうものを頂は高く、すそ野は広く、そんなふうにして今年の春フェスを用意しました。

全てこれを書いてあるのが、お手元のA4縦紙のチラシでありますけれども、静岡カンヌウィーク 2019 が開かれる4月27日から5月26日までの1か月間のプログラムですけれども、例えば、このてっぺんを満足させるそういう出し物が、ふじのくに世界演劇祭SPACがプロデュースする、静岡県舞台芸術センターSPACがプロデュースする今年の目玉はマダムボルジアですね。

これも、今日ここにチラシをご用意していますので、ぜひ、芸術性の高い質の、クオリティの高いそういう芸術にこのゴールデンウィークに楽しみたいという方は、ぜひ1回ご覧になっていただきたいなと思います。宮城総監督渾身の一作ですよ、マダムボルジア。ヴィクトル・ユーゴーの痛快歴史スペクトルということでもありますし、一方、すそ野の部分では、例えばサンバカーニバル、5月3日、あれ凄いですよ、静岡の七間町、呉服町を練り歩くサンバカーニバル。すごく気候が温暖なラテン系の気候を有している静岡市ですので、明るく陽気なサンバカーニバルというのが、すごく静岡市に似合っているんですね。

県外からカメラ小僧がたくさん来るんですけれども、見ているだけで、絶対楽しい。感じるものがありますよ、すごいなと。それでもいいんですよ。人間の感性に頭で考えるのではなく、単純にすごいなと。そのダンサーの皆さんもまさに自分を見せたいんでしょうね。見せたい人と見たい人がいるわけだからサンバカーニバルというものが成立していると思うんですね。そこに理屈はないんですよ、楽しければいいと。そういうものもあります。とにかくよりどりみどりで、とにかく静岡市に来てもらおうと、そして消費行動を促して経済の活性化につなげていこうということでもあります。

そして、今年 10 周年、つまり 10 回目のアニバーサリーを迎えるのが通称シズカン、シズオカカンヌウィークです。ご存知だと思いますけれども、静岡市とフランスのカンヌ市は姉妹都市提携をして、そして去年の秋には、私のカウンターパートであるダビット・リスナル市長が静岡市に来てくれて、静岡市の素晴らしさを、あるいは日本の素晴らしさを、ご夫妻で体感をしてくれました。

今年のこの森理世さんの表紙のこれもお覧になっていただきたいんですけども、10 周年ということでこう開けてもらいますと、リスナル市長のメッセージも今年もらいました。カンヌ市長からメッセージをいただきましたと 2 ページに書いてありますけれどもね。これは春フェスの間ずーっと週末を中心に開かれています。これも非日常の経験をしてほしいんですね。静岡とカンヌと映画とグルメ・マルシェですね。

私は、一期目の 2011 年に初出馬したとき、市長選挙に、その時のマニフェストに掲げた公約なんです。せっかくフランスのカンヌ市と姉妹都市ならばこれをもっと生かしたイベントを市が下支えをして、それまでは、七間町の商店街を振興する小さな民間の催しで終わってたんです。それを公的資金を入れることによって七間町だけではなくて、全市的に展開をしていこうということで始まったんですけども、これ官民連携でやっているし、実行委員会も民間主体なんですけど、こうやって 1 つ最初に公共投資をすると、民間の皆さんが私の想定以上にいろいろなアイデアを持ってきてくれるんです。どんどん、どんどん膨らんでくるんですよ。シズカンのパワーが増してくるんですよ。

だから民間の力を呼び込むということは大事だなというふうにつくづく感じているんですけども、例えば、3 ページ、3 ページをお覧になってください。今年初めてなんですけれども、用宗漁港を舞台にして 4 月 27 日、皮きりですけども、用宗コートダジュールミーティングっていうのを計画してくれたんですよ。

これルノー、車のね、今話題のルノーとタイアップした企画であります。これでルノーは、ルノーの車を静岡の用宗のやつで大宣伝して、それを営業活動にしてもらえればいいわけですよ。これで車を売ってくればいいわけですね。そういう中で用宗というのは、例えば、カタカナにただけでずいぶん語感が違うんです。

おりしも先月新しい荷捌き場がわりと外国の方々からも分かるように MOCHIMUNE ってアルファベットで新しい荷捌き場を書いてありますけれども、すごく合うと思います。カンヌの海の面前がコートダジュール、それと用宗ということでこんな風にしてやっていくという

のが、今年の新しい企画であります。

そして、2週目から駿河区の登呂遺跡の田園のマルシェから始まり、そして、第3週目は葵区の七間町の街角のマルシェ、そしてフィナーレの第4週は清水区のマリンパークで海辺のマルシェということになって、この25、26がカンヌ市で実際に去年、万引き家族がパルムドール、グランプリになりましたけれども、その現地時間で最優秀賞が発表する時期が、この海辺のマルシェの時になるというようなことでもあります。

こうやって姉妹都市カンヌ市との友情を育むとともに、これもこの静岡でヨーロッパの雰囲気、南仏の雰囲気、カンヌの雰囲気を味わってもらうこと、PRすることによって、交流人口の拡大、消費活動を促して経済活性化に繋げてくるということでもあります。

春フェス、この春フェスを皮切りに、夏フェス、秋フェス、冬フェスと始まっていきますのでね、そういった意味でもすごく、最初、令和の時代の最初を飾るものですので、すごく大事にしたいなというふうに思っております。

かのウィリアム・シェイクスピアは作品の中でこう言っています、「二度とこぬ春、のがすな。」と。今まで以上に街中がフェスティバル空間となり、パワーアップした静岡市の春フェスを逃さぬように、ぜひお楽しみいただくとともに、これからの「まちは劇場」にご期待ください。以上です。

【司会】

はい、それではただいまの発表項目につきまして、ご質問がある方はお願いしたいと思いますが、ご質問の際は、社名、お名前をおっしゃってからお願いしたいと思います。

いかがでしょうか。よろしいですか。

【市長】

ひとつくらい欲しいな。

【司会】

はい。では、次に移りたいと思います。

幹事社質問になりますので、幹事社さんよろしく願いいたします。

【SBS】

よろしく申し上げます。二つほど伺いたいと思います。

4月12日に、地下駐車場で発生した車両火災で、消火用の泡で車に斑点が残るような二次被害を受けた来庁者の方が、請求先を把握したいと困惑しています。市長のお気持ちと市の対応策のようなものがあれば、田辺市長の考えを教えてください。

2つ目に大型連休はどのようにお越しの予定ですか。以上です。

【市長】

はい、二つ質問をいただきました。まず火災の件ですが、あらためて市民の皆様にご心配おかけしました。また地下の駐車場に車を停めていた皆さんには、消火活動とその後の安全確認などで出庫まで長い時間お待たせし、特にご迷惑をおかけしました。

今回の火災の原因については、現在、消防も協力して警察で調査中であります。出火の原因、原因者がまだ特定されておりませんので、今後の調査結果をふまえて、市としての対応を検討していきたいと考えています。

それから、10 連休の過ごし方ですけれども、前半はね、半分楽しみなんですけど、公務多いです。先ほどの春フェス、できるだけ多く私も参加をしたいなと思いますし、市長としてね、公務としてね。あるいは新茶のシーズンですのでね、茶工場の巡回等も日程の中に入っていますので、それも、ぜひ大事にしたいなというふうに思っています。

後半には、少し選挙の疲れもたまっていると、他の方々、私はそうでもないんですけどね、やる気満々なんですけど、休むことも大事だよということを考慮していただき、後半は4日以降はね、少しゆっくりした家族での時間が過ごせそうです。以上です。

【司会】

よろしいですか。ありがとうございました。

それでは、各社さんからのご質問を受けたいと思いますので、よろしく願いいたします。どうでしょう。はい、静岡朝日テレビさん、どうぞ。

【静岡朝日テレビ】

昨日のですね、県知事の定例会見でですね、ひとつ知事あてにというか、知事公室に届いた手紙というのが紹介されまして、メディアでも出ていましたけれども、小学校3年生の女の子から県知事と静岡市長の関係について、「ニコニコでケンカせずに頑張ってください」というメッセージが届いて、知事としては非常にこういうふうに心配かけるのは恥ずかしいし、申し訳ないと。これからニコニコで務めるというふうにはおっしゃっていたんですけれども、この件について、田辺市長はどのようにお感じになられますか。まずその所感をお伺いしたいです。

【市長】

嬉しいですね。私もニコニコで努めたいと思っているので、県知事もニコニコで努めていただきたい。そんな気持ちを伝えたいと思って当選の翌日、私、ノーサイドにしようよとお願いに行ったわけですからね。嬉しいと思います。

【静岡朝日テレビ】

関連してですね、県知事の方からですね、いろいろな提案があったことに対して、特に特命職員ですね、県と市の連携の。それについてですね、市長、先だっているいろいろな方と相談して決めたいというふうにおっしゃったと思うんですけども、その後、この件についてはどのように検討して、どんな方針で臨まれるのか、現時点でのお考えをお聞かせいただければと思います。

【市長】

これもこの前記者会見で申し上げたとおりでありますけれども、記者会見で発表したことなので、私は側聞なんですけどもね、もう色んな人にも相談に乗ってもらいましたけども、もうすでにね、副市長と副知事で連携ができていると、ちゃんとね、パイプがあるというふうに思ってますのでね、それに委ねればいいことだろうと思います。

【記者】

(聞き取れず)

【市長】

それを前提としてね、直接言われてませんから。

【司会】

毎日新聞さんどうぞ。

【司会】

知事の方は、事務方からの交渉を通して特命を置いたりとか、そういう話をしていきたいというふうに言っていると思うんですけども、事務方の方でもそういった話が出てないということなんでしょうか。承知されてないということなんでしょうか。

【市長】

そうでしょうね。何か事務方補足ありますか。

【司会】

はい、他にいかがでしょう。はい、NHKさんどうぞ。

【NHK】

すいません。あまり話し理解できなかったので、もう一回お願いしたいんですけど、知事としては、この前のお茶の場の時にですね、セレモニー時に、市長の方に直接話をしたいとか、まあそういうふうな、知事のこの前の会見で言ったことを市長にお伝えしたというふうな

ことをおっしゃっているんですけど、それを受けてどういうふうに市長はしたいと思っているのかというのをもう一回お願いできますか。

【市長】

必要があればお会いします。

【NHK】

必要があれば会うということなんですけれども。実際に、知事としては特命の理事もおいて、直接事務方レベルで話をした上で、それで協議の場がもう少しレベルが上がれば話をしたいということだったんですけど、まだその前段階として、まず知事の方は一応事務方のトップを誰か置くと。で、市長としては、それは誰になるっていうことです。

【市長】

すでにあるでしょうということです。その大きさに特命のなんということはないってことです。

【司会】

はい。どうぞ読売新聞さん。

【読売新聞】

そうすると県としては、知事の方がですね、特命担当の理事が静岡市との交渉のトップに立つというお考えを示していますが、静岡市としては、副市長がその理事との対応役になるという理解でよろしいでしょうか。

【市長】

その前にね、その特命の理事と、今まで副知事が私たちのカウンターパートナーでね、副市長とやってきましたのでね。そのところはどうなっているんでしょうね。またそのへんのところ確認してからですね。副市長どうでしょうね。

【副市長】

今までもですね、県市事務レベル、副市長レベルも含めて、副知事レベルも含めて、色々の場で実質的な協議をして、円滑に県市連携ができていのかというふうに思っていて、それをこれからも継続するというような理解しております。

【読売新聞】

それと前回もちよっと同じような聞き方をしたんですけども、市としては、県としては知

事がですね、特命の職員を置いて、その人を筆頭にしてやるというようなやり方をしたいというお考えを示していますが、静岡市としてはそれぞれの事務レベル担当の幹部に応じてということなんですかね。各レベルでやるという、そういうお考えだ、ということよろしいのでしょうか。

【市長】

それよりもね、私たちが静岡市としてチームとして対応したいということです。県知事個人なのか、静岡県庁としてそうなのかよく分かりませんが、私はとにかくチーム静岡市としていろいろな方に相談するというのはそういう意味ですけどもね、副市長・幹部職員・市議会、とにかくいろんなことを静岡市のチームとしてね、これから対応していきたいというのが、先ほどの答えであります。

【読売新聞】

そうすると、そういうような筆頭の担当者は置かないということよろしいのでしょうか。

【市長】

もうすでに、今、副市長からお答えをしたように、実質的にできているという理解を私はしています。

【司会】

朝日新聞さん、どうぞ。

【朝日新聞】

では市長は、もう今後2年間ですね、お会いになる気はないんですか、知事に。

【市長】

必要ならばお会いします。

【司会】

よろしいですか。はい、ではNHKさん。

【NHK】

すいません。先週に遡ってしまうんですけども、先週その前に、知事の方から特命の理事を置きたいという会見でお話しされて、それに対して市長は会見ではなくて、直接私に言ってほしいということだったんですけど、その上で、お会いされた上で、お話がきたと思うんですけど、今の回答では…

【市長】

お会いしていない。新茶初取引の時はね、そういう場じゃないので止めまじょうと、私、言ったわけですよ。

【NHK】

その話はやめまじょうと、直接その時会いに来てほしいと、そういう話は今じゃないですよということをお話しされた？

【市長】

そういうことです。

【NHK】

その経緯があって、今のようなご回答いただいたんですけども。

【市長】

今のような回答？今の私の話ですね。

【NHK】

はい、知事レベルとかでも含めて県市連携できていますよ、という回答だったと思うけどそれはそういう話だったら先週の段階でその話ができたんじゃないかなと思うんですけども、記者会見のこの場でですね、なんというか、直接知事に会いに来てほしいというふうなことをいう回答ではなくて、もうすでに県市連携できているんだっていう回答自体にたどり着けたんじゃないかなと思うんですけど、この一週間おいて結局何か、何も進んでいないような気がするんですけど、それはどうですか。

【市長】

先週私は、相談をして、それで話します。て言ったのがこの一週間だったわけですね。だから県市連携ですから、組織対組織ですのでね。やはり私は、そのあたりのところを静岡市としてこうしたい。ということを今日申し上げたわけでありませう。

【司会】

静岡朝日テレビさん、どうぞ。

【朝日テレビ】

今、話に出ましたその新茶の初取引の場での会話なんですけれども、昨日の知事の定例会見

では、田辺市長が「ここはそのよう場ではない」というふうにおっしゃったことは、ご発言あったんですけれども、その後ですね、いわゆるトップ会談ということなんですが、その会うということについて、また田辺市長側から「また連絡する」という発言が知事に対してあったというふうに、昨日知事はおっしゃってるんですけれども、これは本当なんでしょうか。そして、連絡する、つまり県としてはこれを、静岡市、田辺市長の連絡待ちという状況になっているんでしょうか。そこのちょっと経緯を教えてくださいたいです。

【市長】

必要があればお会いしますよ、ということに尽きると思います。

【朝日テレビ】

特に連絡をするつもりはないということでしょうか。こちらから、静岡市から。

【市長】

結局、1人の100歩ではなく100人の1歩って僕、よく言うんですけどもね、マニフェストにも書いてありますけれども、やっぱりきちっとね静岡市としての意向を固めなければいけない、というふうに思っていますので、この1週間、話を重ねてきたわけですよ。それでひとつの結論として、いやもう、実質的には先ほど副市長がおっしゃったとおりね、できているじゃないかと。別に特命どうのこうのもいらないじゃないかと、だから必要ないじゃないかと、知事さんも無目的に会う必要はないと言ってますし、必要ならば会うというのは私の答えだということをお知らせしたいと思えます。

【司会】

はい、読売新聞さんどうぞ。

【読売新聞】

今、市長がおっしゃった、チームとして静岡市で対応するっておっしゃってることはよく理解できるんですけども、県としては一応特命担当を置くとなると、向こうは窓口が一人でこちらはこう、副市長とか担当とか、なんというかころころ、いろいろ担当がある形になると思うんですけども、県には、その特命担当みたいな形を別に置かなくても、それぞれの担当同士がやればいって、特命担当を置く必要はないって、そういうことを伝えたいと？

【市長】

そうですね。県市連携も副市長と副知事ができているっていうのも先ほどの通りだし、清水港の120周年については、私どもの経済局海洋文化推進本部と県のカウンターパートナーができていますから、それで出来てるっていうことですよ。副市長、それでいいですよ。

【司会】

よろしいですか。マイクオフをお願いします。他にいかがでしょう。はい、中日新聞さん。

【中日新聞】

話を変えて、ノートルダム寺院の火災があったと思うんですけど、静岡市はプラモデルのまち、歴史的に言うともっといろんな緻密な文化財もお持ちの市だと思うんですが、市として財政的もしくは人材的に、たぶん人材的になると、まだだいぶ先だと思うんですけど、そういった支援を考えているのかっていう、現時点で。

【市長】

現時点では考えていません。推移を見守りたいと思います。

【司会】

どうでしょう。はい、読売さんどうぞ。

【読売新聞】

昨日の知事会見です、知事と市長との関係とは別にですね、知事としては清水庁舎の移転などの問題については、今後特に干渉はしないので、市長から市民の方にしっかり説明して理解を得た上で進めるべきだというお話もされました。

改めて選挙の方で、選挙の際にですね、説明不足だったというようなお話も市長からありましたが、どのような形で市民の方に理解を得ていくお考えか、現時点でのお考えをお伺いします。

【市長】

私自身、折にふれて、その必要性をわかりやすく丁寧に説明をしたいと思っていますし、また何らかの形のね、この前ここでお見せをしたように、パブリックオピニオンを募集する時に広報紙を出しましたけれども、あんな内容を軸にしてね、なるべく災害に強い庁舎なんだということを伝える努力を重ねたいなと思っています。

【読売新聞】

そうすると、例えば広報紙とで出していくとか、何か説明会を開くとか、どのような手段をお考えですかね。

【市長】

そうですね、公室長、とにかく媒体等も使いながら、広報課にこれからね、伝えて欲しい、

とにかくわかりやすさというのがすごく大事だと思うんですけども、実務的にね、これから検討して行ってほしいと思いますが、何かコメントありますか。

【市長公室長】

市長が言われたとおり、伝えることと伝わること、その2つのことをですね、私ども重点に、今後の戦略広報という中で、観点でどのような伝え方がいいのかということ、チームを作って対応していきたいと考えております。以上です。

【司会】

はい、テレビ静岡さん。

【テレビ静岡】

先ほどのカウンターパートの話なんですけれども、県の方は連携が足りてないっていうふうに思って、カウンターパートを出すので、市に対してもカウンターパートを出してほしいっていう、そういう話だと思うんですね。今回、市の方ではカウンターパートを用意しないという話であると、ある意味では県の要望を突っぱねるっていうふうに、むこうとしては捉えてしまう可能性があるのではないかっていうふうに思うんですよ。そうすると両者、関係を改善していこうっていうふうに思われている中で、悪化させてしまう可能性っていうのがあるというふうに個人的には思うんですけど、この点ってどう思われますか。

【市長】

もう悪化させたくはないですね。私たちは县市連携したいと思えますし、その目的で副市長・副知事の連絡会議っていうのも作ったんですよ。屋上屋を重ねる必要はないと思います。ただ、突っぱねるって気持ちも全然ないですよ。だからそんな報道をしないでほしいなと思うんです。私たちは今までどおりやっていきたいっていうことです。

【テレビ静岡】

そうすると、カウンターパートではなく、従来どおりの副市長と副知事の関係を中心にして...

【市長】

実務的にね。

【テレビ静岡】

実務的には進めてほしいというお考えってことでよろしいですかね。

【市長】

その上で必要があれば私は知事ともお会いしたいということは、再三申し上げておきたいなあとと思います。

【テレビ静岡】

ありがとうございました。

【司会】

よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。それでは以上で本日の定例記者会見、終了させていただきます。次回、5月14日火曜日の午前11時からとなりますので、よろしくお願いいたします。本日はありがとうございました。